

第10回県立高等学校編成整備に関する懇話会概要

開催した会議の名称	第10回県立高等学校編成整備に関する懇話会
開催日時	平成23年11月25日（金）14：00～17：00
開催場所	（所在地）〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号 （会場名）沖縄県庁13階第1会議室
出席者	委員（懇話会会長）前泊委員 （懇話会会長代理）前新委員 山城委員（上地委員代理）、城間委員、三村委員 事務局（総務課） 嘉数企画監、渡久山主任指導主事、桃原指導主事 （県立学校教育課） 山城班長、與那嶺班長、小成主任指導主事
会議の公開・非公開	公開
傍聴者の人数	三人
会議の概要	1、開会（前泊） 2、事務局説明 （1）前々回（第8回）懇話会の概要について → 指摘なし （2）HP掲載文の確認 → 了承
	<p><主な意見></p> <p><本部高校について></p> <p>○本部高校、辺土名高校、北山高校、名護高校の4校を絡めて議論してきて、本部高校に関しては、地域に生徒がいるのでいきなり廃校というよりは存続させる方向で一致した。</p> <p><辺土名高校について></p> <p>○規模の大きい名護高校と規模の小さい辺土名高校に理数科があった場合、辺土名地域の生徒がどこの理数科を選ぶだろうか。普通科、理数科、どちらを設置した方が良いのか、判断は難しい。</p> <p>○環境を重視するなら環境科としたらよいのではないか。</p> <p>○環境を充実させるとありながら、理数科の中の環境コースと理数コースの二つに分けるということであるが充実するの か。</p> <p>○現状は、環境科の出口がはっきりしないから志願者が伸びない。入学者が少ないから環境コースと残り半分は普通コースという考え方であるが、理数科とした場合は普通科を希望する生徒は名護に通学しないといけなくなる。距離的問題、地域の負担を考えたときどちらがよいか。</p> <p>○文系にも対応すると言っているが、理数科とおけば理数科としての教育課程が組まれるので、やはり理数科であり納得で</p>

- きない。文系は名護高校に行きなさいということである。
- 辺土名高校の環境科は卒業後どのような進路に進んでいるか。環境科を活かした進路に進んでいるかどうか。学びを生かせる受け皿があるかどうか。
 - 北山高校の理数科を名護に移すことも全部絡んでいるので、これも含めて意見を聞きたい。
 - 北山高校から理数科が名護高校に移ると北山高校の定数確保が難しくなるのではないかと心配される。
 - 名護高校を拠点に北部地域の大学進学体制を整えたいという意図があるということであるが、他の学校は落ち込むことが考えられるが、学校まかせでない支援を考える必要がある。
 - 北山高校の1クラスと流出の20名を考えると2クラス分はないのではないかと、1クラスでよいのではないかと。
 - 名護高校の普通科はそのまま、2クラスの理数科プラスで考えているのか。
 - 前の議論では、普通科と理数科が併置する学校では理数科の定員割れを起こす現状があるという指摘があった。
 - 名護高校では2学級で大丈夫であると考えているのか。実施して後に、普通科を増やすということもあるのか。
 - これまでの意見をまとめると、辺土名高校は生徒数が確保できないことから、分校、理数科とすることでまとめたい。
 - 独立した分校なのか。本校である名護高校から教師の派遣等、人的学習環境は保障されるのか。
 - 本校の理数科職員が分校に行くなど、支援体制を強化する必要がある。計画実施に際しては、これらに留意して辺土名高校は理数科とすることにした。

<北山高校について>

- 北山高校の理数科を廃止して普通科のみとすることには、理数コースとすることも考えているのか。理数コースとなれば、現在の理数科より学習体制が弱くなることが考えられる。今後も引き続き議論しなければいけないことだと思う。
- 最近の理数科の入試状況をみると、学校は努力しているが志願状況は半分に近くなり厳しい状況がある。
- 北山高校の市町村別入学者の数を見ると、名護高校からも北山高校に進学している。このことは名護高校に理数科ができたなら生徒は名護高校に戻り名護高校が増えることになる。
- 大学進学を希望する生徒が他地区へ出ている現状がある中で北山高校より名護高校に理数科を設置した方が、大学進学ニーズに応えられるのではないかとという考え方である。
- 募集停止にすかどうするか。判断が難しいが【効果】④「北山高校の普通科は、学校と地域との関係が良好に保たれており、～普通科のみの学科構成によりその特性を活かした学校としてモデルケースになる。」ということから、理数科は地域との関係が良好に保たれていないという印象が持たれる。
【効果】④は載せる必要があるか検討を要する。
- 北山高校は、行事等で地域との関係が良好に保たれており、部活動は地域の中学校とのつながりも強い。しかし、理数科は実績も出していることも理解はできるが、志願状況等で数値として表れていない状況がある。
- 厳しい判断だが、案どおりでよいということにした。

<名護高校について>

- 名護高校の理数科をどうするか、心配されるのは、ある一定

の中南部へ生徒が流れるのを防ぐことは予想できるが、名護高校が拠点校になって生徒が集まってしまう、周辺学校への影響が心配される。

- 名護高校に理数科を2クラス設置することで普通科が減り、周辺校に普通科希望者が増え、逆に活性化する可能性もある。他地区への流失の歯止めになることが予想される。
- 名護高校に理数科を持ってきたら活性化することが予想されるが、逆に辺土名高校の理数科がぼやけてしまうことが懸念され、行政としてよほど人的配置など特色を出す必要がでてくる。
- 名護高校に理数科を設置すると、辺土名高校の理数科がつぶれてしまうことが心配である。分校としても維持できなくなるのではないか。
- 学力等の問題はあるが、学校は努力して大学進学等につなげているのが解る。辺土名の理数科については地域の理解を十分にしていくことが必要だと考える。
- 辺土名高校、北山高校、名護高校については、案どおりということでもとめたい。しかし、様々な懸念事項があったので、留意していただきたい。

＜八重山商工高校定時制課程再編について＞

○確認事項

- ・南部総合実業高校に関しては、当該校の状況が理解されている話があったのでこれは了解となった。
- ・久米島高校については過半数の定員割れがある状況で、普通科の定員割れも出てきていることから、素案のとおり了解となった。
- 前回の話し合いでは、夜間部の商業科を昼間の普通科にすることについては、他の高校に昼間部の普通科を増やすことは難しく、八重商工高校は定時のノウハウを持っているので導入しやすい、という説明があった。しかし、働きながら学ぶ生徒は少なくなっている現状はあるが、少数ではあるが働きながら学ぶ生徒の救済はできないものかという学校側からの意見もあった。
- 定時制の昼間部というのは午後1時か2時頃だと聞いたが、働きながら学ぶというのなら、この生徒たちはいつ働くのか。昼働いて、午後4時からというのがよいのではないか。敢えて昼間部として、夜間アルバイトするとなるとどうなのか。
- 八重山商工定時の実態調査では、回収できたのが41名、生徒数は47名、経営者1名、アルバイト25名61%、正規雇用が0、無職6名14%、その他（家の手伝い、店の手伝い）9名22%で昼間働いている人が減ってきている。実態を踏まえて、昼間部に定時を設置した方がよいということ、中退した生徒が行き場を失っているのでは、そのような生徒を受け入れるフューチャースクール的なものを考えてのことである。
- 泊高校の午前部のような朝から登校という形は、心因性の生徒への対応を考えると厳しいという判断だと考える。
- 教諭（指導者）負担が多くなならないような配慮が必要である。
- 現在の定時制は給食があるが、昼間部ではなくなるので、その人たち（働いている人？）への配慮をよろしくお願いしたい。
- 八重山商工高校定時の夜間部を昼間部へ移すということでも

とめたい。

＜北谷高校フューチャースクールについて＞

- 前回に太良高校の視察報告があったが、北谷高校への設置ということで、一般枠は普通科2クラス、全県枠は普通科3クラス、単位制の普通科である。
- 北谷高校の定員割れは1クラス分の定員割れである。北谷高校の改革であれば、7クラスにしたらすむということではないか。7クラスのところを2クラスにするということは、地域の普通科を希望する生徒にとっては5クラス減ることになる。中退を1クラス分とすると4クラス分と考えることができるが、4クラスの学校を1校なくしたことと同じになるが、いかがなものか。
- 周辺校のクラス増とあるが、どこの学校の増というのはあるのか。
- 初めてのことであり、生徒が希望してくるかどうか、本当に3クラス生徒はいるのか。多いのではないかと思う。
- 周辺の適応教室に通級している生徒数は把握していないということだが、実態として、心因性の不登校が250名いるとしてもこの生徒たちがフューチャースクールに来るかどうか。不安材料として3クラスという数字が気になる。佐賀県では500名のうち1割しか確保できなかったということもあった。
- 心因性の不登校生徒を対象として、1クラス30～35名と考えているということだが、このような生徒を30名みることができるか疑問である。
- 佐賀県が、（心因性の不登校及び発達障害の生徒）500名に対し、40名（1クラス）を設置ということだったので、200名に対し100名（3クラス）の募集というのではなく、2クラスでよいのではないか。佐賀県が成功しているというのはこじんまりとしていることもあるのではないか。
- 上限は押さえられないのか。例えば、60名でも3クラスとし、TT等で授業をすることなど、指導面で手厚く対応する必要がある。
- 医療的ケアは必要ではないのかもしれないが、スクールカウンセラー、臨床心理士などの対応が必要になってくると考える。
- 一般募集枠を2クラスとした理由は、一般枠の生徒と全県枠の生徒との量的なバランスを考えてということだが、教育活動を活発にするには、4クラスが必要になってくるのではないか。部活動もするのだから活性化させるためには、ある程度の規模が必要ではないか。一般枠4、全県枠2でよいのではないか。
- 学校として活性化するためには、一般枠を4クラスにしてはどうか。
- 大方の意見は一般枠を4クラスがよいのではないかである。フューチャースクールの全県枠はあまり広げないで2クラスぐらいでスタートしてはどうか。
- 不登校の子どもたちが行きたくなるような体制をつくる必要がある。手厚い支援ができますよという対応を示す必要がある。
- 北谷高校については、全県枠を2ぐらい、一般枠を4ぐらいということではどうかということである。
- 素案の最後のイメージ図でクラス数があるが、内容には明記していない。今後はよく調整を図る必要がある。

- 気になるのは、実施時期で平成29年度に新1年生とあるが、その時に2,3年生がいるのではないか。単位制では多くの教室が必要であり、生徒がいると施設の整備をするときに困るのではないか。
- 普通科の生徒には単位制、2学期制を望んでいるのか。定員割れを起こすことが考えられるのではないか。一般枠2クラスでよいのではないか。
- 単位制では多くの科目が必要になってくるので、一般枠4クラスが必要である。
- 単位制は、前期、後期と単位修得しやすいということがあり2学期制をとる必要がある。
- 単位制も実際には、課題も出てくると思うが、実施しながら検討しながら解決していくものである。

＜南部フューチャースクール（仮称）について＞

- 北谷高校と同じように3クラス必要かというのは気になる。
- 南部工業高校を沖縄水産高校と統合して、南部総合実業高校（仮称）ということであるが、他県では、入学した学校で卒業する方法が取られているようだが、フューチャースクールを実施するときに在校生は全学年一斉に移す必要がある。
- 実施するときに設備が残っているのは困る。ここは、太良高校と同じように不便な場所である。北谷よりも厳しいのではないか。
- 単独校としてのイメージが、悪い感じがする。交通の便が悪くて、生徒が集まるか心配である。活気もないのではないか。
- 実際にスタートさせないとわからないことだらけである。
- 真和志高校は元々このような学校ではなかったが、生徒を送り出す方としては、学校に来ることができない、そのような生徒を受け入れ元気にしてもらっていることで感謝している。南部工業高校跡は通学の便が気になる。
- 不登校の定義は怠学気味の生徒も入っていて、理由なく30日以上休んだものであると考えるが、フューチャースクールでは心因性の不登校に特化したものを指していると理解する。このような学校をつくることはいいことだと思うが、受け皿をしっかりとった方がよいと考えている。
- 南部工業高校の周辺地域への情宣をしっかりとっておく必要がある。
- 現在の役割を考えると、真和志高校をフューチャースクールにして、南部工業高校を売却して教育予算に充ててはどうか。
- かつて、真和志高校に勤めたものとしては、現在いい方向に向かっているところなのでもう少し様子を見て欲しい。真和志高校の今の生徒と心因性の生徒がうまくいくかどうか心配される。
- いい意味で注目を集めて、いい方向へ向かうといいのではないか。
- 南部フューチャースクール（仮称）は提案されたとおりということにしたい、様々な懸念されることもあるが、克服してスタートして欲しい。

＜那覇工業定時制再編について＞

- この計画是那覇工業高校の定時制を午前部、昼間部、夜間部に分け、さらに夜間と併置する形で中学生を支援するセンタ

	<p>一を組み入れる計画である。現在的那覇工業高校は何クラスか。計画のクラスはどのようになっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○泊高校午前部の定員オーバーで弾かれている状況があるので、計画の午前部、夜間部はありがたい。 ○那覇工業高校に現在ある学科はどうなるのか気になる。学校側とも慎重に調整検討しないといけない。 ○今、工業高校で取得可能な資格は夜間でもとれるようにして欲しい。 ○中学生の支援センターは夜間部にあるが、昼間部ということも考えられたが、中学生支援センターを昼間におくと、市町村教育委員会と生徒の取り合いになる。 ○市町村の遊び型非行の生徒を受け入れている施設では、農業・漁業等の体験学習をやり、心をほぐし学校に戻すようにしている。那覇市では非行傾向の生徒を対象としている「きら星学級」がある。 ○昼間学校にいるなら学校で面倒を見たい。しかし、このような子どもたちは得てして、朝、昼は学校に来ることができない。このような生徒（遊び非行型など）は、仕事をしたいと思っている。資格を取ることができたらなおよい。 ○素案にある「中学校教諭、警察、民生員、その他関係機関の人材も指導員として派遣する」に魅力を感じる。 ○この子たちが、（定時制再編の学校に）はたして行くのか。高校生がいる学校に来るかどうか。 ○趣旨はよくわかるが、何かが起こった時に責任の所在はどこにあるのか今後調整、検討を要する。 ○泊の就学支援センターをもっとうまく使うことができないか。充実させる必要があるのではないか。 ○那覇工業高校は全て定時制に変わって、三部の普通科、工業科になる。 ○定時制再編と、後期計画は次回に継続検討したい。
	<p>4、事務局より諸連絡 ○第11回の日程：12月16日（金）09：30～12：00</p>
	<p>5、閉会</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>担当課 沖縄県教育庁総務課教育企画班（渡久山・桃原） 電話 098-866-2705 FAX 098-866-2710</p>